

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A項

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B項

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C項 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

* 字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
* ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

問一 aーニ bーハ cーロ dーイ [2点×4]

問二 株式会社(4字) [4点]

※ 資本主義・富裕社会…:部分点2点

問三 グローバリゼーションによって無限の消費と発展を求めていけば、地球上の酸素量や消費する原料は限界を来してしまうというごく当たり前のことについての問い。(74字) [9点]

※ 「酸素」と「原料」が記されていない場合は全体無得点とする。

A グローバリゼーションによって無限の消費と発展を求めていけば (3点)

① 「グローバリゼーションによって」…1点。②があつて得点を与える。

② 「無限の消費と発展を求めていけば」…2点。

B 地球上の酸素量や消費する原料は限界を来してしまう (4点)

① 「地球上の酸素量や消費する原料は」…2点。

② 「限界を来してしまう」…2点。▼①がなければ無得点。

C ごく当たり前のことについての問い (2点)

▼この箇所は「:当たり前のことなのに、私たちはなぜこうした社会を作ったのか」という問い」でもよい。

問四 ハ [4点]

問五 と思う。(5字) [5点]

問六 無限に存在する資源の恩恵にあずかるために、この世界に残る非効率なものを排除し、また、ひたすら効率を求めて消費を活発化し、カネの流動性を高めるために、経済成長の源泉である商品にはどのような規制も存在してはならないとする、ビジネスの枠組の中だけで有効性を持つ論理。(130字) [12点]

A 無限に存在する資源の恩恵にあずかるために、この世界に残る非効率なものを排除し、(3点)

① 「無限に存在する資源の恩恵にあずかるために」…1点

▼この箇所は「資源は無限に存在し、人間はその資源を無限に消費できるという前提で」であつても可。ただし、右の記述とともに書かれている場合は得点なし。

② 「この世界に残る非効率なものを排除し、」…2点

▼「資源の流動性の不十分さを改善する」などの言及は1点を与える。右の記述とともに書かれている場合は得点なし。

B ひたすら効率を求めて消費を活発化し、カネの流動性を高めるために、(3点)

① 「ひたすら効率を求めて」…1点

② 「消費を活発化し」…1点

③ 「カネの流動性を高めるために」…1点

C 経済成長の源泉である商品にはどのような規制も存在してはならないとする。(3点)

① 「経済成長の源泉である商品」…1点

② 「どのような規制も存在してはならない」…2点

D ビジネスの枠組の中だけで有効性を持つ論理。(3点)

※ 制限字数の半分以上書かなかった場合は無得点とする。

※ 「から」「や」「こと。」のように、設問要求に正確に答えていない場合、文末不備として1点減点。

※ 句点を付けていないものも1点減点。

問一

基準 配点： 2点×4

■模範解答 ※解答例通り（漢字書き取り問題）

- 1 途端
- 2 漠然
- 3 不可知
- 4 留保

問二

基準 配点： 4点

■模範解答 ※解答通り（記号選択問題）

□

問三

基準 配点： 6点

■模範解答 ※解答例通り（記号選択問題）

ハ

問四

■形式上の不備

- ・文末表現：模範解答参照
- ・句点がなくても減点しない

基準 配点： 6点

■模範解答 ※次の3パターンのいずれか（内容説明問題）

- ・現われていない物。（9字）
- ・今現われていない物。（10字）

- ・与えられていない物。(10字)

問五

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 8点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

私は、目の前に現われていないペンは

B

「机の引き出しの中」にあるという

C

手がかりによって、

D

ペンのある場所を安定的に位置づけているということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…七十字以内 三十四字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 私は、目の前に現われていないペンは…2点

・「私」を主語にしていないものを説明していないもの、傍線部の「自分」が「目の前に現われていないペン」であることを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 「机の引き出しの中」にあるかどうか…2点

- ・傍線部「(自分の)居場所」が「机の引き出しの中」であることを説明していないものは、要素B加点数なし
- ・同意例…「机の引き出しの中」にしまったという

・同意例：特定の場所にあるという

・不可例：指示されたペンのありかを辿っていくことによって

■要素C 手がかりによって：2点

・要素Bが要素Aの「手がかり」であることを説明していないものは、要素C加点数なし

・同意例：過去の経験から

・同意例：辿っていくことで

■要素D ペンのある場所を安定的に位置づけているという点：2点

・傍線部「(ペンが) 指示している」を、主語である「私」に対応する述語の形に言い換えていないものは、要

素D加点数なし

・同意例：ペンのある場所を求めることができるということ

・同意例：ペンのある場所を安定的に位置づけ、「ある」ものと見なしている

問六

基準 配点：6点

■模範解答 ※解答例通り（記号選択問題）

二

問七

■形式上の不備

・文末表現：要素D参照／「～経験している」の後に、「～と考えている」が続いても可

／「～世界」で終わっても、「～として経験している」につながるの可

／「～経験」で終わっても、「～と考えている」につながるの可

・句点の扱い：1点減点

基準 配点：12点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

物は現われているかどうかという差異を持つが、

B

私たちは、現われている物については、有無をそのまま認識し、

C

現われていない物については、あり方の確定性を留保し、経験の進展によって、物の指示構造を修正しながら認識するという形で、

D

指示構造の全体として世界を経験している。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百三十字以内 六十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 物は現われているかどうかという差異を持つが：3点

- ・物には「現われている」「現われていない」という差異があることを説明していないものは、要素A加点数なし
- ・同意例…物は現われている物と現れていないものがあるが

■要素B 私たちは、現われている物については、有無をそのまま認識し：3点

- ・要素Aの「差異」を踏まえて、「現われている」場合の認識のしかたを説明していないものは、要素B加点数なし

- ・同意例…現われている物は有無を認識できるが

■要素C 現われていない物については、あり方の確定性を留保し、経験の進展によって、物の指示構造を修正しながら認識するという形で：3点

- ・要素Aの「差異」を踏まえて、「現われていない」場合の認識にしかたを説明していないものは、要素C加点数なし

- ・同意例…現われていない物について、あり方の不確定性を理解した上で、それを経験の進展によって、物の

指示構造を修正しながら認識し、

■要素D 指示構造の全体として世界を経験している：3点

- ・「指示構造の全体」であることを説明していないものは、要素D加点数なし

- 問一 ① こごち ② くちぎ ③ けしき (各1点)
 ↓ (1) 解答通り。 ④ まか

問二 A II イ F II II G II 口 (各2点×3)

問三 (各4点×3)

問三・B・模範解答例 a (1点) b (2点) c (1点)
 家において母の看病をしたところ、 (4点)

- 【各部の採点】 4点満点。加ポイント3箇所。
 a 「母の」……………1点。看病の対象である「母」の明示。
 b 「看病をし」……………2点。「看病する」「世話をする」のような解釈。
 c 「たところ」……………1点。「くしたところ」という接続助詞「ば」の偶然条件＋過去の意味。

問三・C・模範解答例 a (1点) b (1点) c (2点)
 弟の僧に会って死にたい。 (4点)

- 【各部の採点】 4点満点。加ポイント3箇所。
 a 「弟の僧に」……………1点。「この僧」が「弟の僧」であることを明示する。「僧の息子」でも可。
 b 「会って」……………1点。「見て」が「会って」と訳してあるか。
 c 「死にたい」……………2点。「くたい」という自己願望。

問三・E・模範解答例 b (2点) a (2点)
 「狐のしわざであろう」(各4点)

- 【各部の採点】 4点満点。加ポイント2箇所。「狐であるだろう」は3点とする。
 a 「(狐の) くであろう」……………2点。「にこそ(あらめ)」だから、「くであるだろう」という断定＋推量の意味。
 b 「しわざ」……………2点。狐がひきおこした事件という表現。

問四 I 死ぬ II 死な III 死な IV 死ぬる (各2点×4) 解答どおり

問五 (9点)

問五・模範解答例 a (2点) b (1点) c (2点) d (1点) e (1点) f (2点)
 既に夜分で従者もおらず、一人で遠く離れた三条京極まで行くのは大変だと思っただから。(40字) (9点)

- 【各部の採点】 9点満点。加ポイント6箇所。30字に足りないものは2点の減点。
 a 「既に夜分で」……………2点。真夜中であるという点。
 b 「従者もおらず」……………1点。呼びに行く従者がいないという点。

- c 「一人で」…2点。たった一人でいくという内容。
- d 「遠く離れた三条京極まで行くのは」…1点。遠く離れた三条京極という具体的な書き方。
- e 「大変だと思った」…1点。「難しい・困難だ・大変だ・危険だ」のような評語。
- f 「から」…2点。文末の表現。ここだけ正解では加点なし。

問六（9点）

e（1点） f（2点）

a（2点）

b（1点）

c（1点）

d（1点）

問六・模範解答例 兄が弟の許から帰る際、鼠のように鳴き、不気味に笑う青く光るものに遭遇し、鏑矢を射たら、忽然と消えたという恐ろしい

g（1点）

出来事。（59字）

【各部の採点】9点満点。加点ポイント7箇所。

- a 「兄が弟の許から帰る際」…2点。事件が起きたのはいつかを明示する。
- b 「鼠のように鳴き、不気味に笑う」…1点。笑い声の異様さを具体的に明示。
- c 「青く光るものに遭遇し」…1点。化け物の外面の描写。
- d 「鏑矢を射たら」…1点。化け物に対する威嚇の様子。
- e 「忽然と消えた」…1点。攻撃を仕掛けたあとの化け物の行動。
- f 「恐ろしい」…2点。事件を形容する言葉。
- g 「という出来事」…1点。文末の表現。ここだけ正解では加点なし。

問七 ハ・へ（各1点×2）

問一 【解答通り】 各2点 2×4＝8点

模範解答

a 〓これより b 〓つかふる(つかうる) c 〓およそ

d 〓すなはち(すなわち)

採点基準 現代仮名・歴史的仮名遣いともに可。

・誤答例 a 「こより」

b 「つかえる」

c 「おおよそ」

・現代仮名遣いと歴史的仮名遣いが混在している場合
統一することを注意して、得点を与える。

問二 8点

a 2点

b 2点

c 2点

d 2点

模範解答

韓文公は 進士の趙徳に命じて 潮州の人々の 先生とさせた。

採点基準

・ a 「韓愈」「韓公」など韓愈であることが分かれば2点。

・ a 「公」のままは不可。

・ b 「進士である」「命令して」など可。

・ c 「潮州の」だけなら1点。

・ c 「師とさせた」「師にした」など1点。

・文末を「こと」などと説明型にしたもの減点1点。

・文が完成していないもの、aとbとcが揃っていないものは0点。

問三 【解答通り】 4点

解答 〓 論語

問四 【解答通り】 5点

解答 〓 小人

問五 6点

a 3点

b 3点

解答 〓 潮州の人々の 困窮を救ってくれる 神のような 人物 (十四字)

採点基準

- ・ a 「困窮」「苦難」「貧困」「窮状」など。
 - ・ a 「救う」「救済する」「助ける」のみは1点
 - ・ b 「神」「救い主」「救世主」「守り主」など
- * 「救う」「救済」「助け」などが全体の中から読み取れいものは不可。

問六 【解答通り】 5点

解答 Ⅱ 前守欲_下 請_二 諸朝_一 作_中 新廟_上

採点基準 ・ 送り仮名を付けたものは減点2点。

問七 【解答通り】 9点

解答 Ⅱ ニ

問八 5点

a 2点 b 3点

模範答案 Ⅱ 一年で 廟は完成した。

採点基準

- ・ a 「一年で」「一年の内に」など。
- ・ b 「完成した」「できた」「できあがった」に2点。
「韓文公の(廟)」「新しい(廟)」などは不問。
- ・ b 「墓」は減点1点。